

金森先生のコラム

「いじめをこえて～誰もが自分らしく生きられる！～」

今回は日本と世界のいじめ被害者の証言を集める国際プロジェクトをもとに、それぞれのいじめ被害者がどのようにして自分らしさを取り戻して生きられるようになったのか、そのきっかけを、それぞれの被害者の証言から高橋みなみさんと共に考える内容にしたとのことです。

ポイントは、「被害にあって辛かった いじめはダメだ！」的な観点よりも、「こういうきっかけ、出会いがあったことで今自分らしく楽しく生きている。生きている限りは自分らしさを取り戻すきっかけが来る」という

生きる希望へとつなげるところです。とても大切なテーマに取り組んだ番組だと言えます。番組は高橋さんを含めれば、エイミー、たかひろ、ヘラルドの四人の事例で編集されています。

いじめのきっかけは、体型や給食にかかわってのことが分かる程度で詳細は分かりません。いじめられた辛さがどんなに苦しかったのかも深く描いていません。ポイントで指摘しているように、自分らしさを取り戻すきっかけがどこかに、何かに、あるいは誰かとの出会いによってきっと存在することを、様々な事例、すなわちいじめを乗り越えて自分らしく堂々と生きている人々から見いだすことができるはずです。いじめ被害で自分らしさを発揮できずに苦しんでいる人、あるいは苦しんだ人にとって、周囲の人々の無責任な傍観者的がんばれ！でなく、絶望しつつあった当事者からの生きた姿とメッセージは自信や希望を育むことでしょう。

体型+LGBTの問題

さて、この番組を丁寧に視聴した教師なら、かなり悩むのではないだろうかと筆者は思います。あるいは逆に重要な問題に気づかず気軽に見過ごすかも知れません。なぜなら冒頭から、体型の故からかわれ、いじめられるという事例、しかも日常的にも歴史的にもしばしば気軽にからかいの対象になりがちなケースが登場します。その上、エイミーさんはLGBTの当事者で、きちんとした知識や性の多様性と性のアイデンティティからなる文化、人権への深い理解をとまなう問題も重なってきています。

LGBT（エル・ジー・ビー・ティー）とは、女性同性愛者（レズビアン、Lesbian）、男

性同性愛者（ゲイ、Gay）、両性愛者（バイセクシュアル、Bisexual）、トランスジェンダー（Transgender）の各単語の頭文字を組み合わせた表現です。

このことに関して、例えば混合名簿すら認めずに「男子・女子」区分にこだわる教育界（教師それぞれ）においてはまだまだ理解されているとは言えないと筆者は考えています。いちおう中学生を視聴、指導の対象者としてこのコラムを書いています。LGBTについての学習は一般的にはまだまだ不十分だと思われます。そうであれば、体型とLGBTの問題が重なるエイミーさんへの共感は深まらないかもしれません。逆に深い学習を続けている学級ならば、また当事者に近い生徒ならとても深い共感を持つことでしょう。

恐らくこうした事情をある程度承知の上で、エイミーさんの事例を真っ先に持ってきたディレクターに、教育界への挑戦的な思いを感じます。できればその挑戦的な提起を受ける努力を惜しまないで欲しいと筆者も強く願います。なぜなら、教師が体型とLGBTへの差別的な思いを胸に押し込めたままでは、重要な「自分の価値、自分らしさは、他者が決めるのではなく、自分こそが決める、認める、誉める」という大切なメッセージを生徒に贈ることはできないのではないかと危惧を持ちます。ぜひ、教師自身が理解を深めてから、エイミーさんの今の生きる姿と向き合ってみたいものです。

他者からの差別にとどまらず自分の内から自信と誇りを充分に見いだすことができなかつたエイミーさんは、おそらく成人してからこれまでと違った世界、人々と出会います。性的少数者を異端視せず、性の多様性を生きる人々の応援を得て、自信と誇りを持ち、自分らしく働き生きる場を得たこと、さらに学校後の広い社会・世界にはそうした人々と場が存在するという事実を、希望として持つことができるのだと強く主張（映像化）しています。番組では、エイミーさんの生きる姿が、生徒にLGBTの問題に深く触れなくても、あるいはそのことをいったん置いて、身体的な外見上からくる差別やコンプレックスは、自らや周囲が跳ね返すことが可能なのだと教えてくれます。

臆病になる必要はありません。もし、生徒からレズビアンやLGBTへの質問や揶揄（やゆ）する発言が出れば、ごまかさずに後日きちんと学習することを伝えたいものです。

※性的マイノリティを包括する授業づくりの参考に倉敷市教育委員会の人権教育実践資料「性の多様性を認め合う児童生徒の育成Ⅰ」を紹介しているHPをご案内します。（担当ディレクターより）→[コチラ](#)※NHKのサイトをはなれます

勇気を出して、諦めずに伝えて / 趣味・好きなことに没頭して

エイミーさんの問題をきちんと押さえれば、2番手のたかひろさん、3番手のみなみさん、4番手のヘラルドさんの事例、そこから発信されているメッセージはとても分かりやすいと同時に共感を得やすいと思います。

とりわけヘラルドさんの事例のように、アニメ・漫画・音楽・絵画・デザイン・書道・将

棋・囲碁・・・各種スポーツなど現代では大変豊富な楽しい世界・好きな世界・趣味などに遊ぶ、熱中する、没頭する、打ち込む、逃げる・・・ことが可能になりました。視野を広げることの大切さです。

この四事例を一つひとつ区切らずに通してみても、自分に一番響いた事例・メッセージをグループや学級で交流し合ったらどうでしょうか。

自分が気に入ったメッセージを紹介しあう

さらに異なった展開例を提起してみます。それは【ディレクター's メモ】に抜き書きされている個性あふれるメッセージを、ディレクターに頼らず、以下に紹介されている「FACES（フェイスズ）」を検索して、生徒自身が選び、できたら選んだ理由を語って学級に紹介合う案です。

今回の番組で紹介した VTR は、NHK と世界中の放送機関が連携して展開しているプロジェクト「FACES（フェイスズ）」に集まったものです。「FACES（フェイスズ）」は、世界中のいじめでつらい思いをしている方々に、一人ではないこと、自分らしく生きるきっかけは多様であること、世界は広いことを伝え、いじめ自殺防止・いじめを減らし乗り越えることを国際的に広げていこうと NHK が呼びかけ、現在、20 以上の国や地域からプロジェクトへの参加希望が寄せられている一大プロジェクトです。それぞれの国の放送局が、2 分の「いじめをこえ自分らしさを取り戻した体験を語る」メッセージ動画を制作し、NHK が一同に集めて、放送・ウェブで公開しています。

- ・ [FACES 日本語版 HP](#)
- ・ [FACES 海外向け英語版サイト](#)

上記に目を通し、そこから自ら読み取り選択するほうが様々な声、生きる物語に触れる機会になります。

さらにその手法を真似て、地域の大人や家族、教職員などにアタックし、ミニミニ「FACES（フェイスズ）」を自ら聞き取り撮影し、例えば校内放送や生徒会の場に発信する道も考えられます。

文化祭や生徒会の企画に挑戦してみたらどうでしょうか。そうした指導も考えられます。

金森俊朗（かなもり・としろう）

1946年生まれ。石川県出身。元小学校教諭。元北陸学院大学人間総合学部幼児児童教育学科教授。

様々な実践教育に取り組む中、1989年に妊婦を招いて行った性の授業を皮切りに本格的に"いのちの授業"を開始。1990年には末期癌患者を招いた"デスエデュケーション"を行う。その教育実践手法は、教育界のみならず医療・福祉関係者からも注目を集め、「情操教育の最高峰」と高い評価を受けている。

主な著書に「いのちの教科書」（角川書店）、「子どもの力は学び合ってこそ育つ—金森学級38年の教え」（角川書店）、「金森俊朗の子どもの・授業・教師・教育論」（子どもの未来社）、「学び合う教室 ～金森学級と日本の世界教育遺産」（角川新書）など。